



ステレオインテグレート アンプ

取扱説明書

接続と準備をする

再生する

チューナー

メニュー／その他の機能

困ったときは／仕様

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のために注意事項を守る

「安全のために」(このページと34~36ページ)の注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。「使用上のご注意」(33ページ)もあわせてお読みください。

定期的に点検する

1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、電源プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーの相談窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



- ① 電源を切る
- ② 電源プラグをコンセントから抜く
- ③ お買い上げ店またはソニーの相談窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

△ 危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

△ 警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

△ 注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



スラグをコンセントから抜く

目次

同梱品一覧	4
本機の特長	4
各部の名前と働き	5

接続と準備をする

1 : 必要なものを準備する	10
2 : スピーカーを設置／接続する	11
3 : AV機器を接続する	13
4 : FMアンテナを接続する	16
5 : 本機の電源をオンにする	16
6 : スピーカーを設定する	17

再生する

AV機器の音声を再生する	19
BLUETOOTH機器の音声を再生する	19

チューナー

FM放送を受信する (オートチューニング)	22
FM放送局のプリセットをする (プリセットメモリー)	23

メニュー／その他の機能

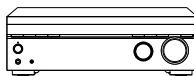
メニューを使う	24
原音に忠実な音を楽しむ (ピュアダイレクト)	26
各入力の名前およびプリセット 放送局名を変更する (NAME IN)	26
表示窓で情報を確認する	27
本機を使って録音をする	28
お買い上げ時の設定に戻す	28
消費電力を抑える	29

困ったときは／仕様

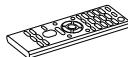
困ったときは	30
使用上のご注意	33
安全のために	34
主な仕様	37
BLUETOOTH無線技術について	38
商標について	40
保証書とアフターサービス	40
索引	41

同梱品一覧

- 本機(1)



- リモコン(1)



- 単4形マンガン乾電池(2)



- FMアンテナ線(1)



- スタートガイド(1)



ステレオスピーカーシステムの接続、機器の接続、接続されている機器の音を聞くまでを説明しています。

- 取扱説明書(本書)(1)



本機の特長

BLUETOOTH®機能を搭載

- ウォークマン®やスマートフォン、タブレットなどとBLUETOOTH接続して、本機で音楽コンテンツをワイヤレス再生できます(19ページ)。
- 本機がスタンバイモードのときでも、ペアリングされているBLUETOOTH機器から本機の電源をオンにできます(24ページ)。

PHONO IN端子搭載

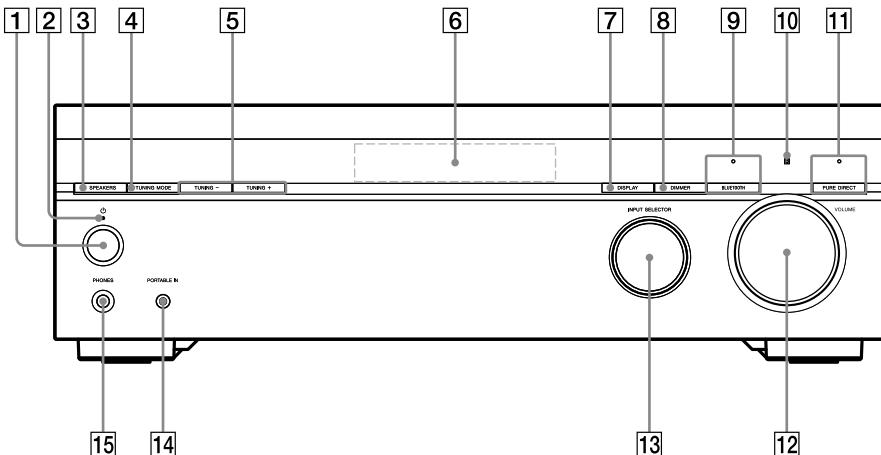
本機にレコードプレーヤーをつないで高音質のサウンドが楽しめます(13ページ)。

本機の説明書について

- イラストは細かい部分を省いて描いていることがあります。そのため実際の製品とは多少異なることがあります。
- 本機の説明書では主にリモコンによる操作を説明しています。本体にも同じ名称や類似の名称のボタンやつまみがある場合は、本体でも操作できます。

各部の名前と働き

本体前面



① (電源)

本体の電源をオンまたはスタンバイ状態にします。

② 電源表示ランプ

- ・緑色：本機の電源が入っています。
 - ・赤色：本機がスタンバイ状態で、「BT STBY」が「STBY ON」の設定になっています。*
 - ・消灯：本機がスタンバイ状態で、「BT STBY」が「STBY OFF」の設定になっています。
- * 機器が本機とペアリングされていて「BT POWER」が「BT ON」に設定されているときのみ、ランプが赤く点灯します。機器がペアリングされていない、もしくは「BT POWER」が「BT OFF」に設定されているときは、ランプは点灯しません。

③ SPEAKERS (17ページ)

スピーカーシステムを切り替えます。

ご注意

「OFF SPEAKERS」を選ぶと、スピーカーからは音声が output されません。音声を出力するときは「OFF SPEAKERS」以外の設定を選んでください。

④ TUNING MODE (22、23ページ)

⑤ TUNING +/- (22、23ページ)

⑥ 表示窓 (6ページ)

⑦ DISPLAY (27ページ)

⑧ DIMMER

表示窓の明るさを調節します。

⑨ BLUETOOTH

本機の入力を「BLUETOOTH」に切り替え、前回つなぎいた機器に自動的につながります。
本機にペアリング情報がない場合は、本機がペアリングモードになります。
本機がBLUETOOTH機器に接続されている場合は、BLUETOOTH機器の接続が解除されます。
BLUETOOTH表示ランプ (19ページ)

⑩ リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。

⑪ PURE DIRECT (26ページ)

ピュアダイレクト機能を選んでいるときは、ボタンの上のランプが点灯します。

⑫ VOLUMEつまみ (19ページ)

⑬ INPUT SELECTORつまみ

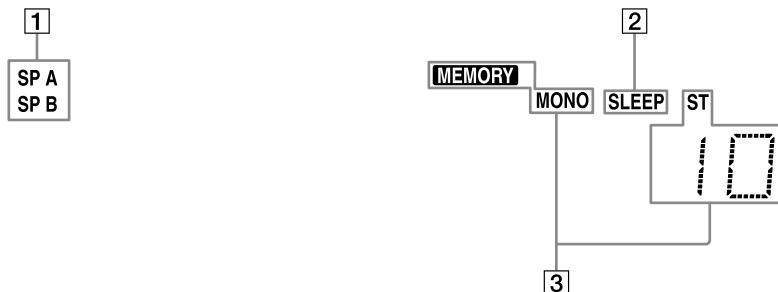
使いたい機器を接続した入力チャンネルを選びます。

⑭ PORTABLE IN端子 (14ページ)

⑮ PHONES端子

ヘッドホンをつなぎます。

表示窓上のインジケーター



- ① スピーカーシステム表示 (17ページ)

ご注意

スピーカー出力がオフになっている場合、またはヘッドホンが接続されている場合は、これらのインジケーターは点灯しません。

- ② SLEEP
スリープタイマーが働いているときに点灯します。

- ③ 受信表示
ラジオを受信しているときに点灯します。

MEMORY

プリセットメモリー(23ページ)などのメモリー機能が働いています。

MONO

モノラル放送

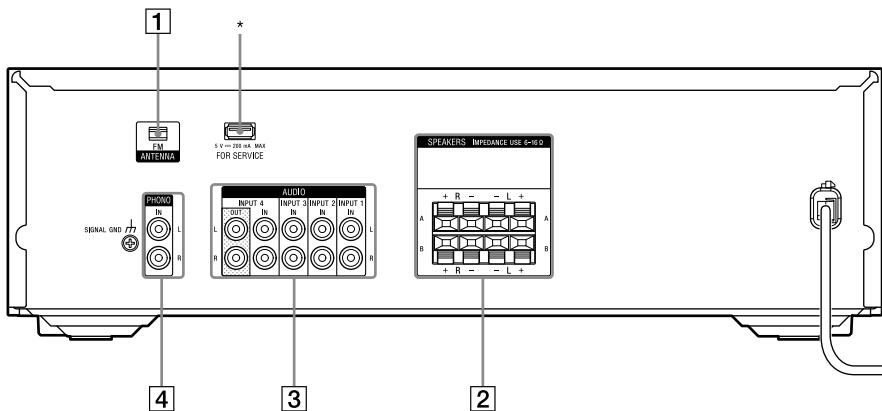
ST

FMステレオ放送



プリセット放送局番号(選んだプリセット放送局によって、番号が切り替わります。)

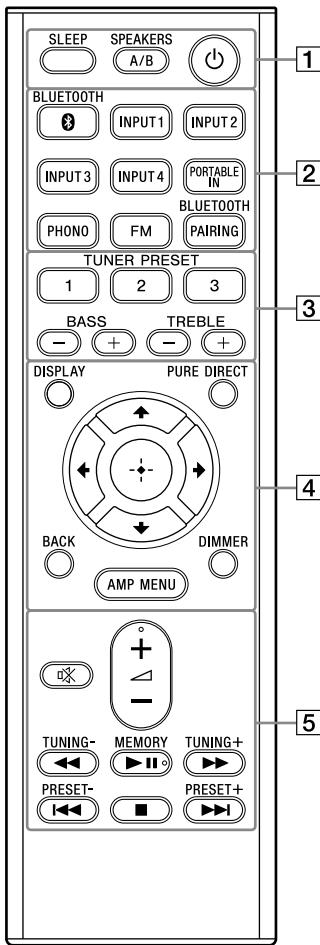
本体後面



- ①** FM ANTENNA端子 (16ページ)
FM ANTENNA terminal (Page 16)
- ②** SPEAKERS端子 (11、12ページ)
SPEAKERS terminals (Pages 11, 12)
- ③** AUDIO IN/OUT端子 (13、15ページ)
AUDIO IN/OUT terminals (Pages 13, 15)
音声入力および出力端子。
Audio input and output terminals.
- ④** PHONO IN端子 (13ページ)
レコードプレーヤーをつなぎます。
PHONO IN terminal (Page 13)
Connects to a record player.

* サービス用です。

リモコン



① Ⓜ (電源) (16ページ)

本体の電源をオンまたはスタンバイ状態にします。

SLEEP

指定した時間に自動的に電源が切れるよう設定できます。

このボタンを押すたびに表示窓の表示は次のとおり切り替わります。

0-30-00 → 1-00-00 → 1-30-00 →
2-00-00 → OFF

スリープタイマー使用中は、表示窓に「SLEEP」インジケーターが点灯します。

ちょっと一言

- 本機の電源がオフになるまでの時間を確認するには、SLEEPを押します。表示窓に残りの時間が表示されます。
- 以下の操作を行うとスリープタイマーが解除されます。
 - SLEEPをもう一度押す。
 - Ⓜ (電源)を押す。

SPEAKERS A/B (17ページ)

スピーカーシステムを切り替えます。

このボタンを押すたびに表示窓の表示は次のとおり切り替わります。

SPK A → SPK B → SPK A+B →
OFF SPEAKERS*

* 表示窓に「OFF」と「SPEAKERS」が交互に表示されます。

ご注意

「OFF SPEAKERS」を選ぶと、スピーカーからは音声が出力されません。音声を出力するときは「OFF SPEAKERS」以外の設定を選んでください。

② 入力切り替え用ボタン

BLUETOOTH、INPUT 1、INPUT 2、
INPUT 3、INPUT 4、PORTABLE IN、
PHONO、FM

使いたい機器を接続した入力チャンネルを選びます。いずれかの入力切り替え用ボタンを押すと、本体の電源が入ります。

ご注意

「BT POWER」が「BT ON」に設定されているときは、BLUETOOTHを押すと本体の電源がオフになります（25ページ）。

BLUETOOTH PAIRING（20ページ）

本機の入力を「BLUETOOTH」に切り替え、ペアリングモードにします。

③ TUNER PRESET 1、2、3（23ページ）

プリセット放送局1、2、または3を選びます。これらのいずれかのボタンを押すと、本体の電源がオンになり、選んだプリセット放送局を受信します。

BASS +/-（18ページ）

TREBLE +/-（18ページ）

④ DISPLAY（27ページ）

PURE DIRECT（26ページ）

ピュアダイレクトを有効にすると、すべての入力で原音により忠実な音を楽しめます。

⑤ ◎（決定）、↑ / ↓ / ← / →

↑、↓、←、→を押してメニュー項目を選び、◎を押して決定します。

BACK

前のメニューに戻ります。

DIMMER

表示窓の明るさを調節します。

AMP MENU

表示窓に操作メニューを表示します。

⑥ ※（消音）

一時的に音を消します。消音を解除するときは、もう一度押します。

△（音量）+/-

すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。

◀◀/▶▶（早戻し/早送り）、

▶▶（再生/一時停止）*

◀◀/▶▶（前へ/次へ）、■（停止）

接続されたBLUETOOTH機器の再生、一時停止、スキップ、停止の操作を行います。

TUNING +/-

FM放送局をスキャンします。

PRESET +/-

プリセット放送局またはチャンネルを選びます。

MEMORY*

受信中の放送局をプリセットとして登録します。

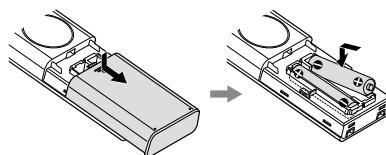
* □ +、▶▶およびMEMORYには凸点(突起)が付いています。操作するときの目印としてお使いください。

ご注意

- 上記の説明は例としてあげています。
- つないでいる機器の種類によっては、付属のリモコンで操作しても、ここで説明されている機能の一部が働かないことがあります。

リモコンに電池を入れるには

リモコンに単4形マンガン乾電池（付属）を2個入れます。+と-の向きを正しく入れてください。



ご注意

- リモコンを高温多湿の場所に放置しないでください。
- 新しい電池を古い電池と一緒に使わないでください。
- マンガン電池と種類の違う電池と一緒に使わないでください。
- 単4形マンガン乾電池のご使用をおすすめします。
- 本体前面のリモコン受光部を直射日光または直射光に当てないでください。誤作動の原因となることがあります。
- 電池は液漏れや腐食により破損するおそれがあります。長い間リモコンを使わないときは、電池を取りはずしておいてください。
- リモコンを操作しても本機が反応しないときは、電池を2つとも新しいものと取り替えてください。

接続と準備をする

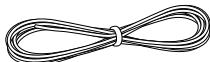
1：必要なものを準備する

同梱品

「同梱品一覧」(4ページ)に記載の部品がすべて揃っていることを確認してください。

接続に必要なケーブル(別売)

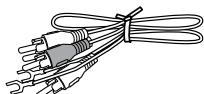
- ❶ スピーカーケーブル



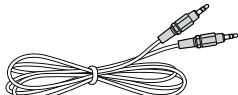
- ❷ ステレオ音声ケーブル*



- ❸ フォノケーブル(アースケーブル付き)*



- ❹ ステレオミニプラグケーブル(3.5 mm)*



* 接続方法によっては必要ありません。

2：スピーカーを設置／接続する

お使いのスピーカーの本数に合わせて、スピーカーを接続・設定してください。本書では、AとBのステレオスピーカーシステムを例として、設置・接続・設定の各手順を説明しています。

ご注意

- 本機に接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、 $6\ \Omega$ ～ $16\ \Omega$ です。
- 接続するすべてのスピーカーの適合インピーダンスが $8\ \Omega$ 以上の場合は、「SP IMP.」を「8 OHM」に設定してください。それ以外の接続の場合は、「6 OHM」に設定してください。詳しくは、「6：スピーカーを設定する」(17ページ)をご覧ください。
- ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。
- 電源コードをつなぐ前に、SPEAKERS端子間でスピーカーケーブルの金属線部が互いに接触していないこと、または本体後面に接触していないことを確認してください。接触していると、アンプ回路の故障につながります。

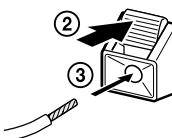
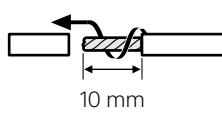
スピーカーケーブルのつなぎかた

スピーカーケーブルは、下図のように本機側とスピーカー側の極性+（赤）／-（黒）を合わせてつないでください。



スピーカーケーブル先端の被覆を $10\ mm$ 程度むいて、ケーブルの芯線をしっかりとねじり、図のように先端を端子に差し込んでください。

①

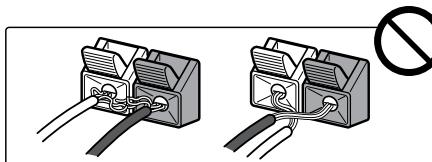
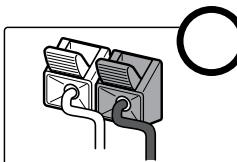


④



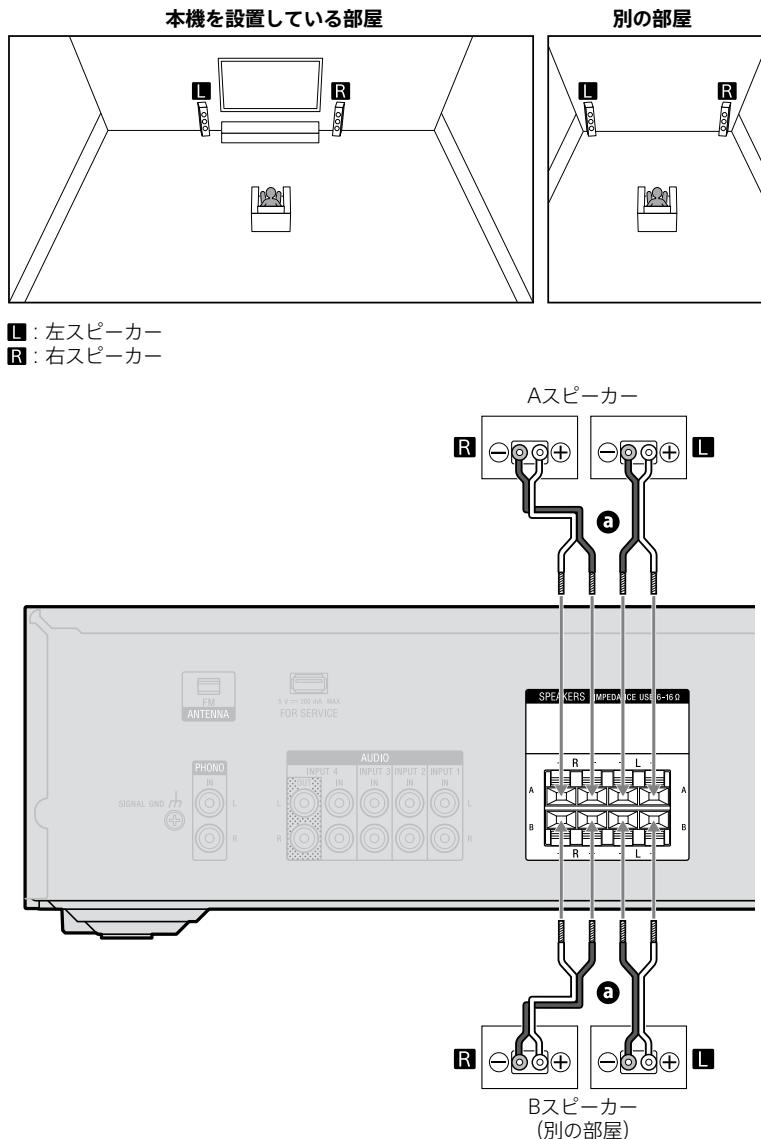
ご注意

- スピーカーケーブルの被覆をむきすぎて、スピーカーワイヤー同士が接触することがないように気をつけてください。
- 不適切な接続をすると、本機の故障の原因となることがあります。



AおよびBスピーカーを使ったステレオスピーカーシステム

Bスピーカーを追加することにより、音声を別の部屋で楽しめます。



ご注意

Bスピーカーを追加すると、使いたいスピーカーをSPEAKERS A/Bボタンで選べます(17ページ)。「OFF SPEAKERS」を選ぶと、スピーカーからは音声が出力されません。音声を出力するときは「OFF SPEAKERS」以外の設定を選んでください。

3 : AV機器を接続する

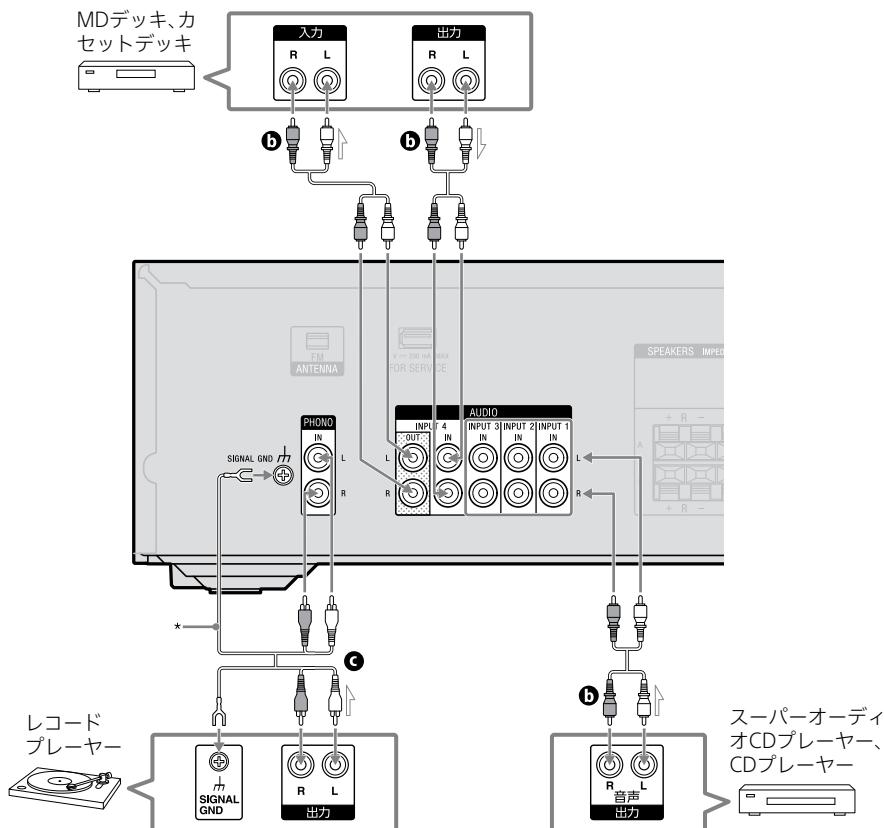
ご注意

必ず電源コードを抜いた状態でケーブルをつないでください。

ちょっと一言

- 以下に説明されている機器以外もAUDIO IN/OUT端子に接続することができます。
- それぞれの入力の名前を変えて本機の表示窓に表示させることもできます(26ページ)。

オーディオ機器をつなぐ



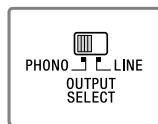
b ステレオ音声ケーブル(別売)

c フォノケーブル(アースケーブル付き)(別売)

* お使いのレコードプレーヤーにアース端子がある場合は、アース線を接続してください。

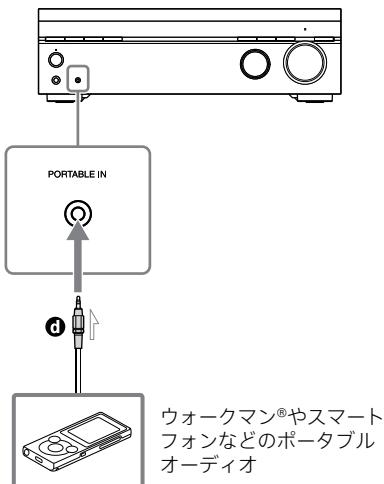
ご注意

- PHONO/LINEスイッチ付きのレコードプレーヤーをつなぐときは、必ずPHONO/LINEスイッチをPHONOに設定してください。



- 本機は、MM型のPHONOカートリッジに対応したフォノイコライザーアンプを内蔵しています。レコードプレーヤーで使われているMMカートリッジには出力レベルの異なるタイプがいくつもあります。MMカートリッジの出力が小さい場合は、フォノ音量調整機能を使って音量を上げてください(25ページ)。
- 本機からの音声を録音するには、AUDIO INPUT 4 OUT端子にお使いの機器をつないでください。

ポータブルオーディオ機器をつなぐ



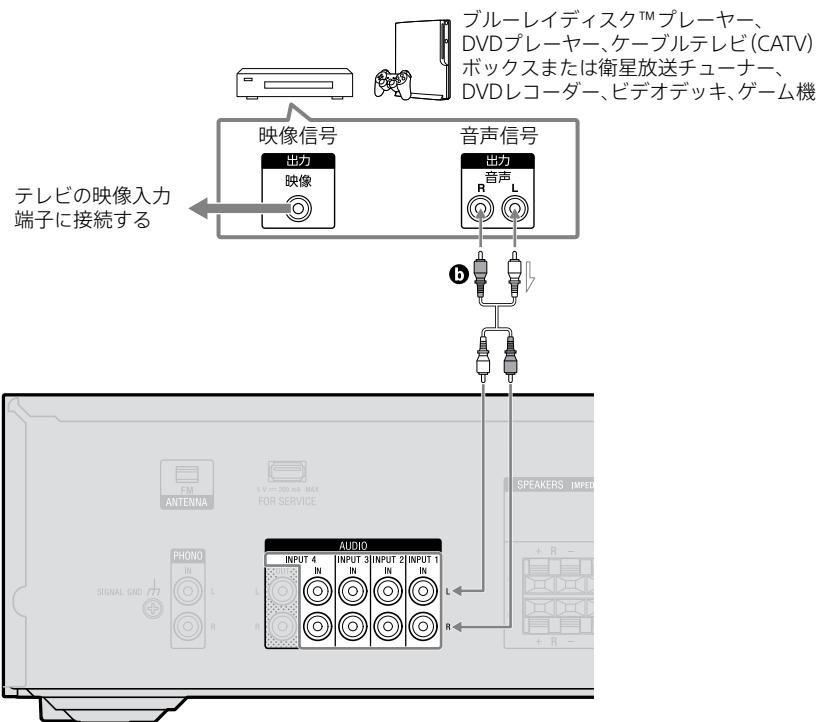
ウォークマン®やスマート
フォンなどのポータブル
オーディオ

- ❶ ステレオミニプラグケーブル(3.5 mm)
(別売)

ご注意

- PORTABLE IN端子につないでいる機器を聞いているときは、音声が歪んだり、途切れの場合があります。これはつないでいる機器によるもので、故障ではありません。
- PORTABLE IN端子につないでいる機器からの音声が小さ過ぎる場合は、音量を上げてください。他の入力に切り替える前に、スピーカーを破損しないように、必ず音量を下げてください。

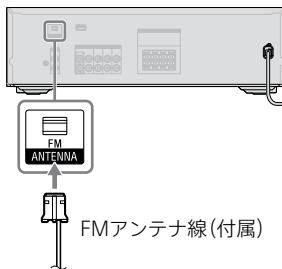
映像機器をつなぐ



④ ステレオ音声ケーブル(別売)

接続と準備をする

4 : FMアンテナを接続する



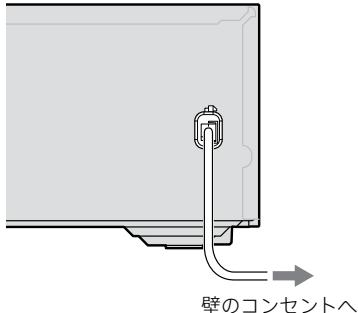
FMアンテナ線(付属)

ご注意

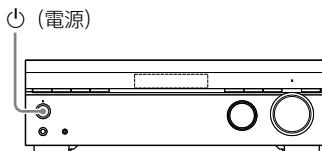
- FMアンテナ線を完全に伸ばしてください。
- FMアンテナ線は、できるだけ水平になるように設置してください。

5 : 本機の電源をオンにする

1 電源コードをコンセントにつなぐ。



2 本体前面の「（電源）」を押して、電源を入れる。



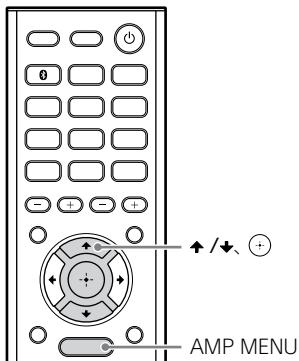
ちょっと一言

リモコンの「（電源）」を押しても、本機の電源が入ります。電源を切るときは、もう一度「（電源）」を押します。

6：スピーカーを設定する

スピーカーインピーダンスを設定する

お使いのスピーカーのスピーカーインピーダンスを正しく設定してください。



1 AMP MENUを押す。

表示窓にメニューが表示されます。

2 ↑/↓を押して「SP IMP.」を選び、④を押す。

3 ↑/↓を押して正しいスピーカーインピーダンスを選び、④を押す。

「**8 OHM**」：初期設定。接続するすべてのスピーカーの適合インピーダンスが8Ω以上の場合に選びます。

「**6 OHM**」：接続するすべてのスピーカーの適合インピーダンスが8Ω未満の場合に選びます。

ご注意

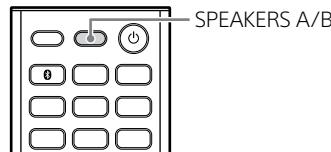
• スピーカーのインピーダンスがわからない場合は、お使いのスピーカーの取扱説明書をご覧ください。(この情報は通常は、スピーカー背面に記載されています。)

- SPEAKERS AとBの両方の端子にスピーカーを接続する場合は、適合インピーダンスが12Ω以上のスピーカーを接続してください。
- SPEAKERS AまたはBのどちらかの端子にスピーカーを接続する場合は、適合インピーダンスが8Ωまたは6Ωのスピーカーを接続してください。

スピーカーシステムを切り替える

本機にスピーカーシステムが2組つながっているときは、操作したいスピーカーシステムを選べます。

SPEAKERS A/Bをくり返し押して、操作したいスピーカーシステムを選ぶ。



このボタンを押すたびに表示窓の表示は次のとおり切り替わります。

「**SPK A**」：SPEAKERS A端子に接続されているスピーカーを使用します。

「**SPK B**」：SPEAKERS B端子に接続されているスピーカーを使用します。

「**SPK A+B**」：SPEAKERS AおよびB端子の両方に接続されているスピーカー(パラレル接続)を使用します。

「**OFF SPEAKERS**」：表示窓に「OFF」と「SPEAKERS」が交互に表示されます。どのスピーカー端子からも音声信号は出力されません。

ご注意

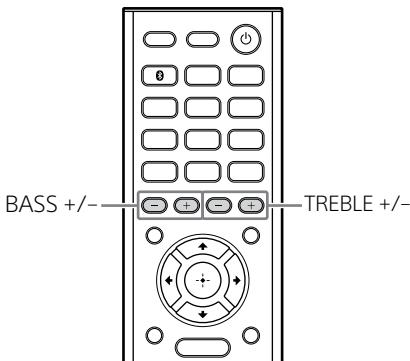
ヘッドホンを接続しているときはこの設定はできません。

ちょっと一言

- どの端子が選ばれているか表示窓の「SP A」、「SP B」または両方のインジケーターが点灯します。スピーカーシステムをオフにすると、「SP A」および「SP B」が消えます。
- 本体前面のSPEAKERSボタンを押してスピーカーシステムを選ぶこともできます。

トーンを調節する

スピーカーのトーンバランスを調節できます。



TREBLE +またはTREBLE -をくり返し押して、高音を調節する。

BASS +またはBASS -をくり返し押して、低音を調節する。

-10 dB ~ +10 dBの範囲で、1 dB単位で調節できます。

初期設定は0 dBになっています。

再生する

AV機器の音声を再生する



- 1 使いたい機器に対応する入力切り替え用ボタンを押す。
表示窓に選んだ入力が表示されます。

- 2 接続した機器で再生を開始する。
3 △ +/-を押して音量を調節する。

ご注意

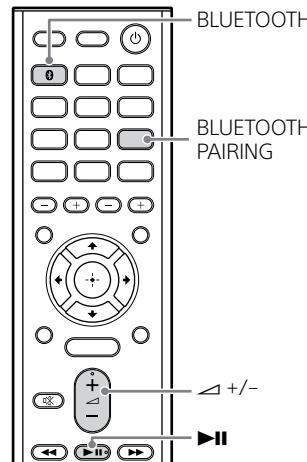
次に電源を入れたときに、大きな音が出てスピーカーを破損しないように、本機の電源を切るときは音量を下げてください。

ちょっと一言

- 音量をすばやく上げ下げするには以下の操作を行います。
 - 本体前面のVOLUMEつまみをすばやく回す。
 - △ +/-のいずれかを長押しする。
- 音量を微調整するには以下の操作を行います。
 - 本体前面のVOLUMEつまみをゆっくり回す。
 - △ +/-のいずれかを短く押す。

BLUETOOTH機器の音声を再生する

BLUETOOTH機能に対応しているウォークマン®あるいはスマートフォンやタブレットの音声／音楽コンテンツを、本機に送信して楽しむことができます。



BLUETOOTH表示ランプについて

本体前面のBLUETOOTHボタンの上のBLUETOOTH表示ランプが青く点灯または点滅し、BLUETOOTHの状態が確認できます。

本機の状態	ランプの状態
接続するBLUETOOTH機器を検出中	ゆっくり点滅する
BLUETOOTHペアリング中	早く点滅する
BLUETOOTH接続確立	点灯する

本機にBLUETOOTH機器を登録(ペアリング)する

ペアリングとは、BLUETOOTH機器同士を互いにあらかじめ登録することです。次の手順に従って、お使いのBLUETOOTH機器と本機をペアリングしてください。一度ペアリングをしたら再度ペアリングを行う必要はありません。ペアリングが完了したら、「登録済み(ペアリング済み)機器の音声を聞く」(20ページ)へ進んでください。

1 BLUETOOTH機器を本機から1メートル以内の場所に置く。

2 BLUETOOTH PAIRINGを押す。

表示窓に「PAIRING」と点滅します。5分以内に手順3を行わないと、ペアリングは中止されます。その場合は、もう一度この手順をやり直してください。

3 BLUETOOTH機器でペアリング操作を行い、本機を検出する。

詳しくは、BLUETOOTH機器の取扱説明書を参照してください。

BLUETOOTH機器の種類によっては、検出された機器のリストがBLUETOOTH機器の画面に表示されます。本機は「STR-DH190」として表示されます。

4 BLUETOOTH機器の画面で「STR-DH190」を選ぶ。

「STR-DH190」が表示されない場合は、手順1からやり直してください。

BLUETOOTH接続が確立すると、表示窓にペアリングされている機器名が表示されます。

5 BLUETOOTH機器で再生を開始する。

6 音量を調節する。

まずBLUETOOTH機器の音量を調節し、音量がまだ小さすぎる場合は、 $\triangle +/-$ を押して音量を調節します。

ペアリング操作を中止するには

入力を切り替えます。

ご注意

- 一部のBLUETOOTH機器のアプリは、本機から操作できません。
- 手順4でBLUETOOTH機器の画面でパスキーの入力が求められたら、「0000」を入力します。パスキーは、「パスコード」、「PINコード」、「PINナンバー」、「パスワード」などと呼ばれる場合があります。
- 最大10台のBLUETOOTH機器とペアリングできます。11台目のBLUETOOTH機器をペアリングすると、最も接続履歴の古い機器が新しくペアリングした機器に置き替わります。

ちょっと一言

BLUETOOTH機器がつながれていないときに、「BLUETOOTH」入力の▶■を押すと、本機は自動的に最後に接続したBLUETOOTH機器につながります。

登録済み(ペアリング済み)機器の音声を聞く

1 BLUETOOTH機器のBLUETOOTH機能をオンにする。

2 BLUETOOTHを押す。

最後に接続したBLUETOOTH機器が自動的に接続されて、表示窓に機器名が表示されます。

3 BLUETOOTH機器で再生を開始する。

4 音量を調節する。

まずBLUETOOTH機器の音量を調節し、音量がまだ小さすぎる場合は、 $\triangle +/-$ を押して音量を調節します。

BLUETOOTH機器の接続を解除するには

- 以下の操作を行うと接続が解除されます。
- 入力を切り替える。
 - BLUETOOTH機器のBLUETOOTH機能をオフにする。
 - BLUETOOTH PAIRINGを押す。
 - 本機またはBLUETOOTH機器の電源を切る。
 - 本体前面のBLUETOOTHをもう一度押す。

ご注意

- BLUETOOTH機器の仕様によって、機能に差が生じる場合があります。
- BLUETOOTHの無線接続では、BLUETOOTH機器と本機との間で音声データや操作のための信号を送受信して処理を行うため、BLUETOOTH機器本体で再生する場合とは異なり、操作に対する反応が遅れたり、再生開始までに遅延が生じたりすることがあります。
- BLUETOOTH機器による以下の遠隔操作は、本機が見える位置からのみ操作を行ってください。
 - 再生/停止/一時停止
 - 曲送り/曲戻し
 - 音量の調整

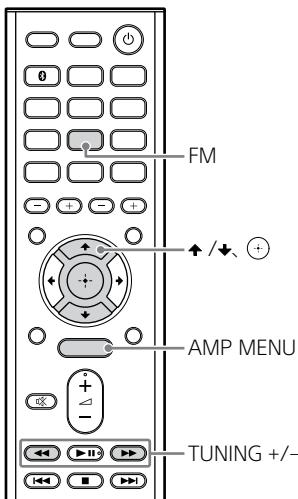
ちょっと一言

- BLUETOOTH機器から受信する音声データの方式として、AACを選択することができます(24ページ)。
- 「BT POWER」が「BT ON」に設定されているときは、ペアリングされているBLUETOOTH機器から本機に接続できます(25ページ)。

チューナー

FM放送を受信する (オートチューニング)

内蔵のチューナーで、FMラジオ放送を楽しむことができます。操作する前に、本機にFMアンテナ線をつないであることを確認してください(16ページ)。



本体の操作ボタンを使う

- 1 INPUT SELECTORを回して、「FM TUNER」を選ぶ。
- 2 TUNING MODEをくり返し押して、「AUTO」を選ぶ。
- 3 TUNING +またはTUNING -を押す。

FMステレオの電波が良くない場合は

FMステレオの電波が良くなく、表示窓に「ST」が点滅した場合は、モノラル音声を選び、音声の歪みを抑えます。AMP MENUを押し、次に↑ / ↓ と ⊕ を押して、「FM MODE」 - 「MONO」の順に選びます。ステレオモードに戻るには、「STEREO」を選びます。

1 FMを押す。

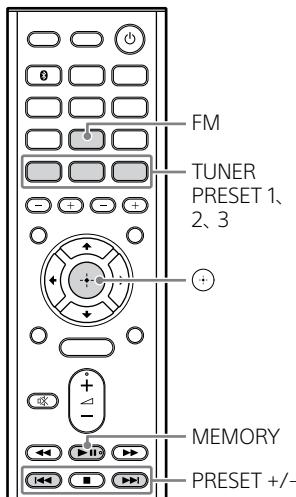
2 TUNING +またはTUNING -を押す。

TUNING +を押すと低い周波数から高いほうにスキャンし、TUNING -を押すと高い周波数から下に低いほうにスキャンしていきます。

本機が放送局を受信すると、スキャンは停止します。

FM放送局のプリセットをする(プリセットメモリー)

FM放送局を30局まで、お気に入りのプリセット放送局として登録できます。



プリセットしてある放送局を聞く

- 1 FMを押す。
- 2 PRESET +またはPRESET -をくり返し押して、放送局を選ぶ。

ちょっと一言

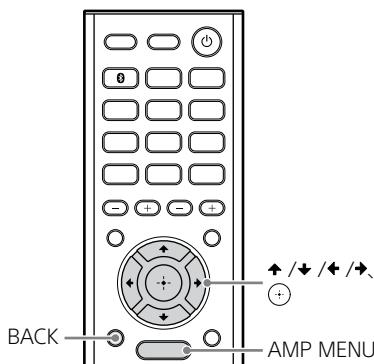
TUNER PRESET 1、2または3で、プリセットされている放送局を選ぶこともできます。

本体の操作ボタンを使う

- 1 INPUT SELECTORを回して、「FM TUNER」を選ぶ。
- 2 TUNING MODEをくり返し押して、「PRESET」を選ぶ。
- 3 TUNING +またはTUNING -を押して、プリセットされているお好みの放送局を選ぶ。

- 1 FMを押す。
- 2 オートチューニングを使ってプリセットしたい放送局を探す(22ページ)。
- 3 MEMORYを押す。
- 4 PRESET +またはPRESET -を押して、プリセット番号を選ぶ。
- 5 を押す。
放送局が選んだプリセット番号に登録されます。
- 6 手順1から手順5をくり返して、他の放送局も登録する。

メニューを使う



1 AMP MENUを押す。

表示窓にメニューが表示されます。

2 ↑ / ↓ を押してお好みのメニューを選び、④を押す。

3 ↑ / ↓ / ← / → を押してお好みのパラメーターや設定を選び、④を押す。

前の表示に戻る

◀ またはBACKを押します。

メニューを閉じる

AMP MENUを押します。

ご注意

パラメーターや設定によっては、表示窓に薄く表示されることがあります。その場合は、使用できないか、固定されているため変更できません。

メニューリスト

初期設定は下線で示しています。

■「SP IMP.」(スピーカーインピーダンス)

詳しくは、「スピーカーインピーダンスを設定する」(17ページ)をご覧ください。

■「FM MODE」(FM放送局受信モード)

- STEREO：ラジオがステレオ放送のとき、信号をステレオ信号としてデコードします。
- MONO：ラジオの放送信号にかかわらず、信号をモノラル信号としてデコードします。

■「BT MENU」(BLUETOOTH設定メニュー)

- 「BT STBY」(BLUETOOTHスタンバイモード)
 - STBY ON：ペアリング済みのBLUETOOTH機器から本機の電源をオンにできます。
 - STBY OFF：ペアリング済みのBLUETOOTH機器からは本機の電源をオンにすることはできません。

ご注意

- 「BT STBY」を「STBY ON」に設定すると、BLUETOOTH機器をBLUETOOTH接続すると本機の電源がオンになります。
- 「BT POWER」が「BT OFF」に設定されているときは、この設定を切り替えることはできません。
- 「BT AAC」(BLUETOOTHコーデック - AAC)
 - AAC ON：BLUETOOTH機器が音声伝送方式としてAACに対応しているときは、AAC音声をご利用になれます。
 - AAC OFF：AAC音声はご利用になれません。

ご注意

- ・「BT POWER」が「BT OFF」に設定されているときは、この設定を切り替えることはできません。
- ・BLUETOOTH機器接続中は、本機能の設定は切り替えることはできません。

ちょっと一言

AAC音声をお使いになると、高音質音声がお楽しみいただけます。

- ・「BT POWER」(BLUETOOTH信号)
 - 「BT ON」: ペアリングされている BLUETOOTH機器から本機に接続できます。
 - 「BT OFF」: ペアリングされている BLUETOOTH機器からは本機に接続できません。

ご注意

「BLUETOOTH」入力が選ばれているときは、この設定を変えることができません。

■「PH.OFFSET」(フォノ音量調整機能)

PHONO IN端子に接続されている機器の音量が調節できます。

レコードプレーヤーで使われているMMカートリッジには音声出力レベルの異なるタイプがいくつもあります。MMカートリッジの出力が小さい場合はフォノ音量調整機能を使って音量を上げてください。

0 dB ~ +6 dBの範囲で、1 dB単位で調節できます。

初期設定は「PHONO 0」になっています。

■「BALANCE」(スピーカーバランス)

左右スピーカーのバランスが調節できます。「BAL. L+10」～「BAL. R+10」の範囲で、1 dB単位で調節できます。

初期設定は「BAL. 0」になっています。

■「NAME IN」(入力の名前を登録する)

入力およびプリセットした放送局の名前を登録できます。詳しくは、「各入力の名前およびプリセット放送局名を変更する(NAME IN)」(26ページ)をご覧ください。

■「AUTO.STBY」(オートスタンバイ)

本機を操作しないとき、または本機に信号が入力されていないときに、本機を自動的にスタンバイモードにします。

- ・「STBY ON」: 約20分後にスタンバイモードに切り替わります。
- ・「STBY OFF」: スタンバイモードには切り替わりません。

ご注意

- ・「FM TUNER」入力が選ばれているときは、本機能は働きません。
- ・オートスタンバイモードとスリープタイマーを同時に使うと、スリープタイマーが優先されます。

■「UPDATE」(ソフトウェアアップデート)

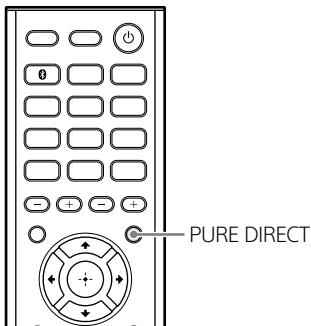
サービス用です。

■「VERSION」(ソフトウェアバージョン)

本機のソフトウェアバージョンについての情報を確認できます。

原音に忠実な音を楽しむ(ピュアダイレクト)

ピュアダイレクト機能により、すべての入力で原音により忠実な音を楽しめます。ピュアダイレクト機能がオンのときは、音質に影響を及ぼすノイズを抑えるために、表示窓は消灯します。



PURE DIRECTを押す。

ピュアダイレクト機能を選んでいるときは、本体のPURE DIRECTの上のランプが点灯します。

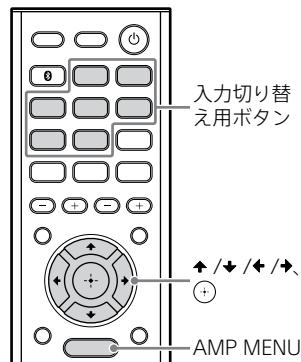
ピュアダイレクト機能をキャンセルするには、PURE DIRECTをもう一度押してください。

ご注意

- ピュアダイレクト機能が選ばれているときは、高音および低音は働きません。
- BASS +/-またはTREBLE +/-を押すと、ピュアダイレクト機能が解除されます。

各入力の名前およびプリセット放送局名を変更する(NAME IN)

表示窓に表示される入力(「FM TUNER」および「BLUETOOTH」を除く)およびプリセット放送局には8文字までの名前をつけられます。入力端子名よりも機器名表示のほうが、入力選びやすくなります。



1 「FM TUNER」入力の場合

FMを押して、プリセットした放送局を受信します(23ページ)。

他の入力の場合

(「BLUETOOTH」を除く)

対応させる入力切り替え用ボタンを押します。

2 AMP MENUを押す。

3 ↑ / ↓ をくり返し押して、「NAME IN」を選び、⊕ または → を押す。

カーソルが点滅したら、文字を入力してください。

4 ↑ / ↓ を押して文字を選び、← / → を押して入力位置を前後に動かす。

ちょっと一言

- ↑ / ↓ を押すと、次のような文字種を選べます。
アルファベット(大文字) → 数字 → 記号
- 空白を入れたい場合は、文字を選ばないで → を押します。

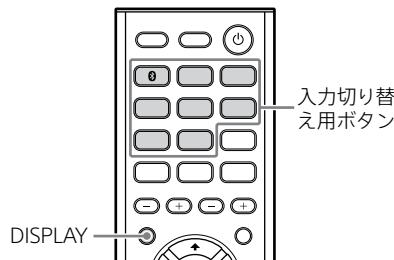
間違えた場合は

変更したい文字が点滅するまで ← / → を押してから、↑ / ↓ を押して正しい文字を選びます。

5 (+) を押す。

入力した名前が登録されました。

表示窓で情報を確認する



1 対応する入力切り替え用ボタンを押して、情報を確認する。

2 DISPLAYをくり返し押す。

このボタンを押すたびに表示窓の表示は次のとおり切り替わります。

入力の索引名* → 選んだ入力 → 音量レベル

FMラジオ聴取時

プリセット放送局名* → 周波数、バンドおよびプリセット番号 → 音量レベル

BLUETOOTH機器に接続している場合

BLUETOOTH機器名 → BLUETOOTH MACのアドレス → 音量レベル → 「BLUETOOTH」

* インデックス名は、入力またはプリセットした放送局に名前を付けた場合のみ表示されます(26ページ)。空白スペースのみが入力された場合、またはインデックス名が入力名と同じ場合は、インデックス名は表示されません。

ご注意

言語によっては、表示できない文字や記号があります。

本機を使って録音をする

本機を使ってオーディオ機器からの音声を録音できます。詳しくは、お使いの録音機器の取扱説明書をご覧ください。

- 1 再生機器に対応する入力切り替え用ボタンを押す。
- 2 再生機器の再生準備をする。
例えば、コピーしたいCDをCDプレーヤーに入れます。
- 3 録音機器を準備する。
録音用MDまたはテープを(AUDIO INPUT 4 OUT端子につながれている)録音機器に入れてください。
- 4 録音機器で録音を開始し、再生機器で再生する。

ご注意

- 録音した音楽は私用目的でのみ使用できます。著作物の私用目的以外の使用については、著作権者の許可が必要です。
- 音声調節は、AUDIO INPUT 4 OUT端子から出力される信号には影響しません。
- 音源を録音中に、本機のオートスタンバイ機能が起動し、録音の妨げになる場合があります。その場合は、「AUTO STBY」を「STBY OFF」に設定してください(25ページ)。
- 本機に接続した映像機器からの音声を録音することはできますが、本機を使って映像を録画することはできません。

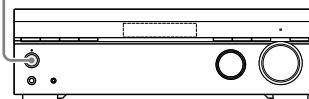
お買い上げ時の設定に戻す

以下の手順に従って、記憶させたすべての設定を消去してお買い上げ時の設定に戻すことができます。

この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

- 1 本体前面の□(電源)を押して、電源を切る。

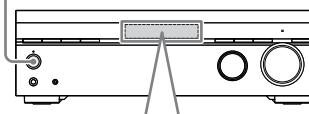
□(電源)



- 2 □(電源)を5秒間長押しする。

初期化中は、表示窓に「CLEARING」と表示されます。初期化が終了すると、表示窓に「Cleared*」と表示されます。

□(電源)



CLEARING



CLEARED*

ご注意

メモリーが完全に消去されるのに数秒かかることがあります。表示窓に「Cleared*」が表示されるまで、電源を切らないでください。

消費電力を抑える

「BT MENU」メニューで「BT STBY」を「STBY OFF」に設定すると消費電力を抑えることができます。

困ったときは／仕様

困ったときは

本機の使用中に問題が発生したら、修理に出す前に、問題を解決するため以下の確認または対策を行ってください。

- ・「困ったときは」の項目にその問題が記載されているかを確認してください。
- ・保存したすべての設定を消去して、お買い上げ時の設定に戻してください(28ページ)。

それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口(裏表紙)にお問い合わせください。

全体

電源が自動的に切れる

- ・「AUTO STBY」が「STBY ON」に設定されている場合は、「STBY OFF」に設定してください(25ページ)。
- ・スリープタイマーが働いています。
- ・異常が検知されたため、保護回路(「PROTECT」(32ページ))が働いています。

表示窓に表示が出ない

- ・本体前面のPURE DIRECTランプが点灯しているときは、PURE DIRECTを押して機能をオフしてください。
- ・本体前面のDIMMERを押して、表示窓で明るさの設定の「BRIGHT」または「DARK」を選んでください。

音声

どの機器を選んでも音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- ・すべての接続ケーブルが本機、スピーカー、その他の機器の入力／出力端子に確実に接続されているかを確認してください。
- ・本機とすべての機器の電源が入っているかを確認してください。

- ・本体前面のVOLUMEつまみが「VOL MIN」になっていることを確認してください。
- ・SPEAKERS A/Bを押して、「OFF SPEAKERS」以外の設定を選んでください(17ページ)。
- ・ヘッドホンを本機につないでいないことを確認してください。
- ・※(消音)を押して消音機能を解除してください。表示窓の「MUTING」が消えます。
- ・リモコンの入力切り替え用ボタンを押すか、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して、聞きたい入力を選んでください。
- ・本機の保護回路が働いています。本機の電源をオフにして、ショートの問題を解消して、電源をもう一度オンにしてください。

ハム音またはノイズがひどい

- ・スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認してください。
- ・接続ケーブルがトランスやモーターから離れているか確認してください。
- ・テレビからオーディオ機器を離してください。
- ・プラグや端子が汚れている場合は、アルコールで少し湿らせた布で拭き取ってください。

特定のスピーカーから音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- ・ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認してください。ヘッドホンから1チャンネルのみが出力される場合は、機器が本機に正しく接続されていない可能性があります。本機と機器の端子にすべてのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
- ・ヘッドホンからは両方のチャンネルの音が聞こえる場合は、スピーカーが本機に正しく接続されていない可能性があります。
- ・音を出力していない側のスピーカーの接続を確認してください。
- ・お使いの機器の音声をアナログ接続で出力する場合は、左右の音声出力端子(L/R)にケーブルを接続しているか確認してください。アナログ音声出力の接続では、左右両方の端子にケーブルを接続する必要があります。接続には、ステレオ音声ケーブル(別売)をお使いください。

特定の機器から音が出ない

- ・機器が、対応する音声入力端子に正しく接続されているか確認してください。
- ・接続に使用されているケーブルが、本機と機器の端子に確実に差し込まれているか確認してください。

左右の音のバランスが悪い、または逆転している

- ・スピーカーおよび各機器が正しく、確実に接続されているか確認してください。
- ・スピーカーバランスを確認してください(25ページ)。

PORTABLE IN端子につないだ機器からの音声にハム音が入ったり、音声が途切れたり、歪んだりする

- ・機器が確実に接続されているか確認してください。
- ・これはつないでいる機器によるもので、故障ではありません。

録音ができない。

- ・機器が正しく接続されているか確認してください。
- ・入力切り替え用ボタンを使って音源機器を選んでください(28ページ)。

レコードプレーヤー

音がほとんど聞こえない

- ・レコードプレーヤーでMMカートリッジを使っているか確認してください。

ハム音がひどい

- ・お使いのレコードプレーヤーにアース端子がある場合は、アース線を接続してください(13ページ)。

音が歪んでいる

- ・PHONO/LINEスイッチ付きのレコードプレーヤーをつなぐときは、レコードプレーヤーのPHONO/LINEスイッチがPHONOに設定されていることを確認してください(14ページ)。

FMラジオ

FM放送の受信状態が悪い

- ・FMアンテナ線を伸ばし、受信状態が良くなるように位置を調節してください。
- ・FMアンテナ線を窓のそばに設置してください。
- ・FMアンテナ線は、できるだけ水平になるように設置してください。

放送局が受信できない

- ・アンテナがしっかりと接続されているか確認してください。必要に応じてアンテナを調節してください。
- ・プリセット登録された放送局がない、またはプリセット登録した放送局が消去されています(プリセットした放送局をスキャンして受信している場合)。放送局をプリセット登録してください。
- ・周波数が表示窓に表示されるまで、DISPLAYをくり返し押してください。

BLUETOOTH機器

ペアリングができない

- ・BLUETOOTH機器を本機に近付けてください。
- ・他のBLUETOOTH機器が本機の周りにあると、ペアリングができないことがあります。この場合は、他のBLUETOOTH機器の電源を切ってください。
- ・ペアリング操作の過程でパスキーの入力を求められたときは、「0000」を入力してください。

BLUETOOTH接続ができない

- ・接続しようとしているBLUETOOTH機器がA2DPプロファイルに対応していない場合は、本機とつなぐことができません。
- ・BLUETOOTHを押してください。前回つないだBLUETOOTH機器につながります。
- ・BLUETOOTH機器のBLUETOOTH機能をオンにしてください。
- ・BLUETOOTH機器側から接続を確立してください。
- ・ペアリング登録情報が消去されています。もう一度ペアリングを行ってください。

- 本機とBLUETOOTH機器が接続しているときは、他のBLUETOOTH機器で本機は検出されません。
- 一度BLUETOOTH機器にあるBLUETOOTH機器のペアリング登録情報を消去し、もう一度ペアリングを行ってください。

音が途切れたり変動したりする、または接続が切れる

- BLUETOOTH機器を本機に近付けてください。
- 本機とBLUETOOTH機器の間に障害物がある場合は、障害物を移動させるか、本機とBLUETOOTH機器のいずれかまたは両方を障害物の影響がない位置に移動してください。
- 無線LAN、他のBLUETOOTH機器、電子レンジのような電磁波を放出する機器が本機の近くにある場合は、それらを遠ざけてください。

BLUETOOTH機器からの音声が聞けない

- まずBLUETOOTH機器の音量を上げてから、リモコンの $\triangle +$ （または本体前面のVOLUME つまみ）を使って音量を調節してください。

ハム音またはノイズがひどい

- 本機とBLUETOOTH機器の間に障害物がある場合は、障害物を移動させるか、本機とBLUETOOTH機器のいずれかまたは両方を障害物の影響がない位置に移動してください。
- 無線LAN、他のBLUETOOTH機器、電子レンジのような電磁波を放出する機器が本機の近くにある場合は、それらを遠ざけてください。
- つないだBLUETOOTH機器の音量を下げてください。

エラーメッセージ

表示窓に「PROTECT」と表示された

数秒後に本機の電源が自動的に切れます。以下を確認してください。

電源コードを抜いて30分放置し、本機の温度を下げてから、以下の対策を行ってください。

- すべてのスピーカーを取りはずしてください。
- スピーカーの芯線の先端がしっかりねじられていることを確認してください。
- 本機が何かで覆われていないか、通気孔がふさがれていないか確認してください。
- 接続されているスピーカーの適合インピーダンスが、本体後面に表示されているインピーダンスの範囲内であることを確認してください。

以上の項目を確認して問題に対処したら、電源コードをつないで本機の電源を入れてください。それでも問題が解決しないときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

リモコン

リモコンで操作できない

- リモコンを本体前面のリモコン受光部に向けて操作してください。
- リモコンと本機の間にある障害物を取り除いてください。
- リモコンの乾電池が消耗している場合は、2本とも新しい乾電池に交換してください。

使用上のご注意

安全について

万一、内部に水や異物が入ったときは、すぐに使用を中止し、本機の電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店または修理相談窓口にご相談ください。

電源について

- ご使用前に、本機の動作電圧が地域の使用電圧と同じであることを確かめてください。
動作電圧は本体背面の銘板に表示されています。
- 長期間本機を使用しない場合は、必ず本機の電源コードを壁のコンセントから抜いてください。
電源コードを壁のコンセントから抜く場合は、絶対にコードを引っ張らず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードは正規のサービス店以外で交換しないでください。

温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。特に、大音量で使用し続けると、本体のキャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因となります。

設置について

- 電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。また、本機を以下のようない所には置かないでください。
 - ぐらついた台の上や不安定な場所
 - じゅうたんや布団の上
 - 湿気の多い所、風通しの悪い所
 - ほこりの多い所
 - 密閉された所
 - 直射日光が当たる所、温度が高い所
 - 極端に寒い所
 - テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所
(テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナの使用時に起こりやすくなります。)
- 特殊な塗装(ワックス、油脂、溶剤など)がされた床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残ることがありますのでご注意ください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。



窓を閉めたり、ヘッドホンを使ったりするなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

操作について

他の機器をつなぐ前に、必ず本機の電源を切り、電源コードを抜いてください。

お手入れのしかたについて

キャビネットおよびパネル面、ボタンの汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。研磨パッド、クレンザー、ベンジンやアルコールなどの溶媒は使わないでください。

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられことがあります。

- 本機を分解／改造すること



警告



火災



感電

下記の注意事項を守らないと火災・ 感電により死亡や大けがの原因と なります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
 - 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
 - 重いものののせたり、引っ張ったりしない。
 - 热器具に近づけない。加熱しない。
 - 移動させるときは、電源プラグを抜く。
 - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーの相談窓口に交換をご依頼ください。



禁止



禁止

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



禁止



分解禁止

内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体 が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火炎源を置かないでください。

- 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止



感電

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないで下さい。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



指示

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

- 内部の点検および修理はソニーの相談窓口またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止

雷が鳴りだしたら、本体やアンテナ線、電源プラグに触れない

感電の原因となります。



接触禁止

本機を日本国外で使わない

交流100 Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



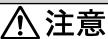
禁止

ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。



禁止



下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えることがあります。

困ったときは／仕様

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

大音量で長時間つづけて聞くと聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにはご注意ください。

→呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。



禁止

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることができます。ボリュームは徐々に上げましょう。特に、雑音の少ないデジタル機器をヘッドホンで聞くときにはご注意ください。



禁止

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落下してけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



禁止

コード類は正しく配置する

電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



禁止

移動させるときは、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



スラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



スラグをコンセントから抜く

設置上のご注意

本機の角だけがなどをしないように、お気をつけください。



指示

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。



禁止

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

高温注意



この表示がある製品表面はさわらないでください。
高温のため、やけどをするおそれがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

△ 危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、数時間たってから症状が現れることもあります。



接触禁止

必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



指示

△ 警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く



禁止

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

- 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない、火のそばや直射日光のあるところなど高温の場所で使用・保管・放置しない



禁止

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない



禁止

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

+とーの向きを正しく入れる



指示

+とーを逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

- 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す



指示

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

主な仕様

アンプ部

スピーカー適合インピーダンス

6 Ω ~ 16 Ω

A/Bスピーカーのインピーダンスと対応するスピーカーインピーダンスの設定

スピーカーシステム	スピーカーインピーダンスの設定(17ページ)	
	「6 OHM」	「8 OHM」
AまたはB	6 Ω ~ 16 Ω	8 Ω ~ 16 Ω
AおよびB	12 Ω ~ 16 Ω	>16 Ω

実用最大出力

ステレオ出力時(6 Ω、JEITA) :

100 W + 100 W

周波数特性

アナログ

10 Hz ~ 100 kHz、+0.5/-2 dB
(BASS = 0 dB、TREBLE = 0 dB時)

入力(アナログ)

PHONO IN

MMカートリッジ
イコライザー RIAA、+/-1 dB
SN比* : 80 dB (聴感補正フィルタA)

PORTABLE IN

感度 : 500 mV/50 kΩ
SN比* : 90 dB (聴感補正フィルタA)

AUDIO IN

感度 : 500 mV/50 kΩ
SN比* : 96 dB (聴感補正フィルタA)

出力(アナログ)

AUDIO OUT

電圧 : 500 mV/1 kΩ

トーン

ゲインレベル

±10 dB、1 dBステップ

* 入力ショート(BASS = 0 dB、TREBLE = 0 dB時)。

FMチューナー部

受信範囲

76.0 MHz ~ 108.0 MHz (100 kHzステップ)

アンテナ

FMアンテナ線

アンテナ端子

75 Ω、不平衡

サービス部

出力電圧

DC 5 V

最大電流

200 mA

BLUETOOTH部

通信方式

BLUETOOTH標準規格4.2

出力

BLUETOOTH標準規格Power Class 1

最大通信距離

見通し距離、約30 m¹⁾

使用周波数帯域

2.4 GHz帯域

変調方法

FHSS (Freq Hopping Spread Spectrum)

対応BLUETOOTHプロファイル²⁾

A2DP 1.2 (Advanced Audio Distribution Profile)

AVRCP 1.6 (Audio Video Remote Control Profile)

対応コーデック³⁾

SBC⁴⁾、AAC

対応コンテンツプロテクション

SCMS-T方式

送信範囲(A2DP)

20 Hz ~ 20,000 Hz (サンプリング周波数

44.1 kHz)

¹⁾ 通信距離は目安です。使用環境により変わります。

²⁾ BLUETOOTH標準プロファイルは機器間のBLUETOOTH通信のためのものです。

³⁾ コーデック：音声信号の圧縮、変換のフォーマットです。

⁴⁾ Subband Codecの略です。

一般

電力規定

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

200 W

スタンバイ時：0.3 W

(「BT STBY」が「STBY OFF」に設定されている場合)

BLUETOOTHスタンバイ時：1.0 W

(「BT STBY」が「STBY ON」に設定されている場合)

寸法(幅／高さ／奥行き)(約)

430 mm × 133 mm × 284 mm

(最大突起部を含む)

質量(約)

6.9 kg

仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2適合品」です。

BLUETOOTH無線技術について

BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTHの特性ごとに機能を標準化したものです。本機が対応するBLUETOOTHバージョンとプロファイルについては「主な仕様」の「BLUETOOTH部」をご覧ください(37ページ)。

通信有効範囲

見通し距離で約10 m以内で使用してください。以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- 無線LANが構築されている場所
- 電子レンジを使用中の周辺
- その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN (IEEE 802.11b/g/n) 機器は同一周波数帯(2.4 GHz)を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近辺でBLUETOOTH機器を使用すると、電波干渉が発生し、通信速度その他の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- 本機を無線LAN機器から10 m以上離して使う。
- BLUETOOTH機器を10 m以内で使用する場合は、無線LAN機器の電源を切る。
- 本機とBLUETOOTH機器をできる限り近付けて置く。

他機器への影響

BLUETOOTH機器が発する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- ・病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- ・自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

- ・本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティー機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティーが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- ・BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・本機と同じプロファイルを持つすべてのBLUETOOTH機器とのBLUETOOTH通信を保証するものではありません。
- ・本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIG, Inc. の定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
- ・本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。



この無線機器は
2.4 GHz帯を使用しま
す。変調方式として
FH-SS変調方式を採用
し、与干渉距離は80 m
です。

本機についてご質問や問題がある場合は、ソニーの相談窓口へお問い合わせください。

商標について

BLUETOOTH®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

“ウォークマン®”、“WALKMAN®”、“WALKMAN®”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

その他すべての商標および登録商標は各社の所有物です。本文中では、™、®マークは明記していません。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

本取扱説明書の「困ったときは」の項目をご覧になり、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときは相談窓口へ

ソニーの相談窓口(裏表紙)へご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間にについて

当社ではステレオの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後8年間保有しています。

ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。

その際、交換した部品は回収させていただきます。

索引

あ行

エラーメッセージ 32

か行

ケーブル 11
工場出荷時の設定 28

さ行

初期化

本機 28
スピーカーケーブル 11
スリープタイマー 8
接続
AV機器 13
FMアンテナ 16
スピーカー 11

た行

同梱品 4
電池 9
電源
消費電力 38
消費電力を抑える 29

は行

ピュアダイレクト 26
ペアリング 20
本体
前面 5
背面 7
表示窓 6

ま行

メッセージ 32
メニュー 24

ら行

リセット
本機 28
リモコン 8

A-Z

AUTO.SBY 25
Bスピーカー 12
BALANCE 25
BASS 18
BLUETOOTH
再生 20
バージョン 37
プロファイル 37
ペアリング 20
BLUETOOTH設定メニュー 24
BT AAC 24
BT POWER 25
BT STBY 24
FM MODE 24
NAME IN 26
PH.OFFSET 25
PURE DIRECT 26
SP IMP. 24
TREBLE 18
UPDATE 25
VERSION 25

サポート情報について

本機の最新情報については、以下のホームページをご覧ください。

<http://www.sony.jp/support/audio/>

「Q&A」ホームページ

お客様からよくあるお問い合わせと解決方法に関する情報を、以下のホームページで確認できます。

<http://www.sony.jp/support/faq.html>

型名：STR-DH190

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル……………0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話…050-3754-9577

修理相談窓口

フリーダイヤル……………0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話…050-3754-9599
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX(共通) 0120-333-389

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

